

鳳成	大進	蔚山	神護	養老	宮浦	久滿	大和	安瀨	高瀬	大榮	神邦	二元	伊利	蘇蘭	智福	鐵山	泰山
四、三〇〇	一、五〇〇	三、六〇〇	六、八〇〇	三、五〇〇	二、三〇〇	一、八五〇	一、〇七〇	二、一〇〇	一、六〇〇	三、五〇〇	六、七〇〇	二、五〇〇	九、一〇〇	九、一〇〇	九、一〇〇	三、六〇〇	五、〇〇〇
小樽返	大阪	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一日二千八百圓	六ヶ月	一ヶ月	孟買航海	六ヶ月	四ヶ月	六ヶ月	六ヶ月	六ヶ月	六ヶ月	六ヶ月	六ヶ月	三ヶ月	地中海航海	同	同	同	同
八、三〇〇	九、五〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	八、八〇〇	八、五〇〇	九、五〇〇	九、五〇〇	九、五〇〇	八、〇〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇	一、六〇〇
大阪	江	日本	日本	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	大阪	日本	日本	佐藤	同	同	同	同
商船	商船	郵船	郵船	商船	商船	商船	商船	商船	商船	商船	郵船	郵船	郵船	同	同	同	同
田	原	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船

天海	元山	春野	檜野	平順	大順	源勢	福勢	大勢	三雲	二歐	春日	南島	七都	三尾	龍尾	昌福	大新
四、七〇〇	五、〇〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	二、二〇〇	一、九〇〇	一、六〇〇	一、八〇〇	一、九〇〇	四、三〇〇	四、七〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、八〇〇	二、一〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
瓜哇航海	六ヶ月	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三、五〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	八、七〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	六、五〇〇	八、五〇〇	一、〇〇〇	八、五〇〇	二、〇〇〇	九、六〇〇
茂	三	東	上	上	上	同	同	同	御用	御用	御用	朝鮮	松尾	東和	村井	茂	同
汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船	汽船
木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木

三東洋	三、六〇〇	十二月	六ヶ月	九、五〇〇	古河
鳥城	三、七五〇	月末	一	一〇、五〇〇	三井
タスマニヤ	三、三〇〇	直渡	濠洲一航海	一〇、五〇〇	同
彌彦	四、〇〇〇	同	三ヶ月	一〇、五〇〇	同
吉備	一、七六六	月末	同	九、〇〇〇	同
公福	一、五〇〇	十一月	五ヶ月	八、五〇〇	同
佐川	一、五〇〇	直渡	六ヶ月	八、八〇〇	同
豊橋	九、一〇〇	三月	神戶渡片道	二七、〇〇〇	同
喜福	九、一〇〇	同	獨逸往復	二七、〇〇〇	同
東泰	五、一〇〇	同	六ヶ月	一〇、五〇〇	同
東隆	三、八五〇	同	同	九、五〇〇	同
浦安	三、六〇〇	三月初	二ヶ月	一〇、〇〇〇	同
空知	二、二五〇	十二月	六ヶ月	九、〇〇〇	同
永仁	一、二〇〇	月末	同	同	同
大元	一、九二〇	同	同	同	同
土洋	三、〇〇〇	十一月	六ヶ月	九、五〇〇	同
大國	六、三〇〇	十二月	一ヶ月	六、三〇〇	同

天泰	一、〇〇〇	十一月	六ヶ月	八、〇〇〇	三井
元天	四、七〇〇	同	五ヶ月	一〇、〇〇〇	同
神元	五、八五〇	同	三ヶ月	一三、〇〇〇	同
瑞山	五、二〇〇	同	同	一三、〇〇〇	同
山瑞	四、六三〇	同	同	一〇、五〇〇	同
東山	五、八〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
穗山	五、七〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
張山	六、三〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
威山	二、七〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
神山	五、〇〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
明山	六、八〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
正海	四、五〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
海正	一、八三〇	同	同	一〇、五〇〇	同
磨海	五、五〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
岡幸	一、八〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
幸代	二、二〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
代南	三、四〇〇	同	同	一〇、五〇〇	同
南代	二、九五〇	同	同	一〇、五〇〇	同

鳥海	二、二〇〇	十二月	六ヶ月	九、六〇〇	茂
東海	三、七〇〇	直渡	一ヶ月	一〇、五〇〇	同
京都	三、八〇〇	同	同	一〇、〇〇〇	同
與安	四、九〇〇	同	同	一〇、〇〇〇	同
帝海	一、八三〇	同	同	一〇、〇〇〇	同
富貴	三、五〇〇	同	同	二、〇〇〇	同
伊南	八、四三〇	同	同	二、〇〇〇	同
海南	八、八三〇	同	同	二、〇〇〇	同
松浦	五、一〇〇	同	同	二、〇〇〇	同
神宮	三、三〇〇	同	同	二、〇〇〇	同
波津	一、〇〇〇	同	同	七、〇〇〇	同
天利	四、〇〇〇	同	同	一〇、〇〇〇	同
彌利	四、〇〇〇	同	同	一〇、〇〇〇	同
喜久	五、〇〇〇	同	同	一〇、〇〇〇	同
智久	九、一〇〇	同	同	一〇、〇〇〇	同
慶利	六、五〇〇	同	同	一〇、〇〇〇	同
廣津	五、一〇〇	同	同	一〇、〇〇〇	同

春光	一、〇〇〇	十一月	四ヶ月	一八、〇〇〇	チエツク
萬國	九、五〇〇	同	同	一八、〇〇〇	同
相島	七、七〇〇	同	同	九、〇〇〇	同
八積	一、七〇〇	同	同	三、〇〇〇	同
神積	八、四〇〇	同	同	九、三〇〇	同
伏見	三、三〇〇	同	同	一〇、〇〇〇	同
末廣	一、二七〇	同	同	七、〇〇〇	同
宇品	六、四〇〇	同	同	八、五〇〇	同
安海	二、〇〇〇	同	同	九、三〇〇	同
增海	一、七〇〇	同	同	九、五〇〇	同
天海	五、〇〇〇	同	同	九、五〇〇	同
正海	一、五〇〇	同	同	八、三〇〇	同
大日	四、五〇〇	同	同	八、三〇〇	同
東日	五、一〇〇	同	同	八、三〇〇	同
泰山	二、七〇〇	同	同	一〇、〇〇〇	同

(六) 海員

海員現在數

年	內國人	外國人	合計
大正二年	三〇,四四三	二,二五九	三二,七〇二
三年	三二,六六九	二,三八九	三五,〇六八
四年	二四,四四五	二,五四三	二六,九八八
五年	二五,〇九七	二,八五五	二七,九五二
六年	二七,〇六〇	三,一七九	三〇,二三九
七年	二九,五六六	三,六三八	三二,六四四
八年九月末			三三,二六六

年	內國人	外國人	合計
大正二年	三〇,四四三	二,二五九	三二,七〇二
三年	三二,六六九	二,三八九	三五,〇六八
四年	二四,四四五	二,五四三	二六,九八八
五年	二五,〇九七	二,八五五	二七,九五二
六年	二七,〇六〇	三,一七九	三〇,二三九
七年	二九,五六六	三,六三八	三二,六四四
八年九月末			三三,二六六

年	內國人	外國人	合計
大正二年	三〇,四四三	二,二五九	三二,七〇二
三年	三二,六六九	二,三八九	三五,〇六八
四年	二四,四四五	二,五四三	二六,九八八
五年	二五,〇九七	二,八五五	二七,九五二
六年	二七,〇六〇	三,一七九	三〇,二三九
七年	二九,五六六	三,六三八	三二,六四四
八年九月末			三三,二六六

船員事務成績

年	新交付	再交付	返還	公認	公認	就職船長	退職船長
二年	三,六九七	九六七	一,〇七	九四,五六六	二一,三五八	一,八四一	一,六六三
三年	三,一八七	九五一	八〇五	九三,四九一	二二,六九五	一,七三九	一,五六九

海技免狀受有者別

年	內國人	外國人	合計
大正二年	一,二二二	一,二二二	二,四四四
三年	一,三三三	一,三三三	二,六六六
四年	一,四四四	一,四四四	二,八八八
五年	一,五五五	一,五五五	三,一一一
六年	一,六六六	一,六六六	三,三三三
七年	一,七七七	一,七七七	三,五五五
八年九月末	三,九六五	三,九六五	七,九三〇

年	內國人	外國人	合計
大正二年	一,二二二	一,二二二	二,四四四
三年	一,三三三	一,三三三	二,六六六
四年	一,四四四	一,四四四	二,八八八
五年	一,五五五	一,五五五	三,一一一
六年	一,六六六	一,六六六	三,三三三
七年	一,七七七	一,七七七	三,五五五
八年九月末	三,九六五	三,九六五	七,九三〇

年	內國人	外國人	合計
大正二年	一,二二二	一,二二二	二,四四四
三年	一,三三三	一,三三三	二,六六六
四年	一,四四四	一,四四四	二,八八八
五年	一,五五五	一,五五五	三,一一一
六年	一,六六六	一,六六六	三,三三三
七年	一,七七七	一,七七七	三,五五五
八年九月末	三,九六五	三,九六五	七,九三〇

造
船

料 理 人	司 厨	石 炭 夫	火 夫	機 庫 番	油 差	火 長	水 夫	甲 庫 番	舵 夫
最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低
一五、〇〇〇	一六、〇〇〇	三三、〇〇〇	五五、〇〇〇	六七、〇〇〇	八三、〇〇〇	九五、〇〇〇	五二、〇〇〇	六〇、〇〇〇	七三、〇〇〇
三〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	四五、〇〇〇	七五、〇〇〇	九〇、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一二五、〇〇〇	七五、〇〇〇	八〇、〇〇〇	九六、〇〇〇
六、〇〇〇	九、三二一	一七、四〇〇	七、九〇〇		一一、九〇〇		五、八六〇		七、七〇〇
一〇〇、〇〇〇	一三五、〇〇〇	一八三、三三〇	九〇、〇〇〇		一三八、三三〇	一〇〇、〇〇〇	六五、〇〇〇		八五、〇〇〇

給仕(最高) 五七、〇〇〇
 最低 三〇、〇〇〇
 一五、〇〇〇
 三、〇〇〇
 六五、〇〇〇

尚右の外各社船及社外船共に各別の復雑を極めたる年
 功加俸航路手當等の増與あるも之を畧す



造船

船舶資格

検査官吏左の標準に依り之を定む。其資格に従ひ航路
 定限に差きあること、表下に示す如し。

等級	船舶種	上甲板噸數	最速速力	航路定限
第一級	汽船	五百噸以上	八節以上	遠洋航路、近海航路
第二級	汽船	五十噸以上	八節以上	沿海航路、平水航路
第三級	汽船	二十噸以上	八節以上	近海航路、沿海航路
第四級	汽船	無制限	六節以上	平水航路
第五級	帆船	無制限	—	沿海航路、平水航路
第六級	汽船	無制限	—	平水航路

進水後二十五年以上の船舶にして、外板其他要部の
 衰耗著しく、従来の資格を繼續し得ざる虞あるもの
 に於いては、検査官吏其衰耗の程度を精査し、逡信
 大臣の指揮を受けて其資格を定む。

積量測度

百立方呎を一噸として測度す。甲板一層又は二層を備
 ふる船舶にありては上甲板を、三層以上を備ふる船舶
 にありては最下層甲板より第二層に在る甲板を量噸甲
 板とす。

總噸數

甲板一層又は二層を備ふる船舶にありては、量噸甲板
 下の噸數に、量噸甲板上蔽圍したる場所の噸數を加へ
 たるもの、甲板三層以上を備ふる船舶にありては、量
 噸甲板下の噸數に量噸甲板上各甲板間の噸數及び上甲
 板上蔽圍したる場所の噸數を加へたるものを總噸數と
 す。甲板を備へざる船舶にありては舷端以下の噸數に、
 舷端以上蔽圍したる場所の噸數を加へたるものを總噸
 數とす。

登簿噸數

總噸數より(一)船員常用室及び海圖室、(二)荷足水艙
 (三)機關室、(四)操舵器具、繫船機具、揚錨機具及び主

脚筒と連絡したる副汽機、副汽機に供用せらるゝ場所
 (五)水夫長倉庫、(六)帆船の帆庫、(七)主務大臣に於て
 船舶の安全、衛生又は利用上前各號に準ずべきものと
 認むる場所の噸數を控除したるものを登簿噸數とす。
 (石數)を以つて積量を表示すべき船舶は、十立方尺を
 一石として測定す。

□公稱馬力

(一)冷汽器を備へざる機關の公稱馬力は汽筒吸鑄の徑
 を時にて測り、之を自乗し、得數を十箇にて除したる
 もの。(二)冷汽器を備ふる機關の公稱馬力は汽筒吸鑄
 の徑を時にて測り、之を自乗し、得數を三十箇にて除
 したるもの。(三)冷汽器を備へざる聯成機關の公稱馬
 力は其汽筒吸鑄の徑を時にて測り、各これを自として
 相加へ、其得數を十箇にて除したるもの。(四)冷汽器
 を備ふる聯成機關の公稱馬力は其各汽筒吸鑄の徑を時
 にて測り、各之を自乗して相加へ、其得數を三十箇に
 て除したるもの。

□本邦標準船型

今回の大戦に鑑み、船舶の建造を成るべく容易に且つ
 速迅ならしむる方法を講ずる爲め、臨時船舶管理局内
 には七年三月標準船型調査會を設け、數回の審議を重
 ねたる結果、現下の戦局に處する應急的のものとして、將來
 の造船を考慮したるものと、二種の成案を得て、六
 月中關係業者の意見を徴するの運びとなれり其案即
 ち左の如し。現時世界列國皆此種の標準船型を定めざ
 るなく、船型に一定の基準を定くるは、單に造船術の
 改良進歩、軍用上徴發の利便に資するのみならず、船
 舶の注文を簡易にし且つ材料品を廉價に製作するを得
 せしめ、修繕を迅速ならしむる等の効益あり。
 戰時急造を目的とする。

船型	構造	甲板	長	幅	深	推進器數	航海力
A	八、〇〇〇噸型	覆甲板	三三、五	三、〇	三、〇	一	一〇ノ
B	八、〇〇〇噸型	重構	三三、五	三、〇	三、〇	一	一〇ノ
C	六、〇〇〇噸型	同	二二、五	二、〇	二、〇	一	一〇ノ

D 三、〇〇〇噸型 同 一 二六、八 四、七、五 三、五、〇 一 九
 將來の造船を併せて考慮する場合。

一、普通標準船型

船型	構造	長	幅	深	推進器數	航海力
A	一〇、〇〇〇噸型	覆甲板	四三、五	四、〇	四、〇	二
B	一〇、〇〇〇噸型	重構	四三、五	四、〇	四、〇	二
C	八、〇〇〇噸型	覆甲板	三五、〇	三、〇	三、〇	一
D	八、〇〇〇噸型	重構	三五、〇	三、〇	三、〇	一
E	六、〇〇〇噸型	覆甲板	二五、〇	二、〇	二、〇	一
F	六、〇〇〇噸型	重構	二五、〇	二、〇	二、〇	一
G	五、〇〇〇噸型	同	二〇、〇	一、五	一、五	一
H	五、〇〇〇噸型	同	二〇、〇	一、五	一、五	一
I	二、〇〇〇噸型	同	一五、〇	一、〇	一、〇	一
J	二、〇〇〇噸型	同	一五、〇	一、〇	一、〇	一
K	二、〇〇〇噸型	尾樓	一五、〇	一、〇	一、〇	一

二、特別標準船型

船型	構造	長	幅	深	推進器數	航海力	浦賀船渠會社	淺野造船所	大坂鐵工所	川崎造船所	三菱造船所	三菱造船所	浦賀船渠會社
L	一三、〇〇〇噸型	重構	四八、〇	四、七、五	三、七、五	二	三、五〇〇噸						
M	一〇、〇〇〇噸型	覆甲板	四三、五	四、〇	三、八、〇	二	三、〇〇〇噸						
N	一〇、〇〇〇噸型	重構	四三、五	四、〇	三、八、〇	二	三、〇〇〇噸						
O	八、〇〇〇噸型	覆甲板	三五、〇	三、〇	三、五、〇	二	二、五〇〇噸						
P	八、〇〇〇噸型	重構	三五、〇	三、〇	三、五、〇	二	二、五〇〇噸						

□本邦主要造船所獨特標準船型

造船所	噸數	重量噸
浦賀船渠會社	三、〇〇〇噸	三、五〇〇噸
淺野造船所	五、〇〇〇噸	六、八〇〇噸
大坂鐵工所	三、〇〇〇噸	三、五〇〇噸
川崎造船所	五、〇〇〇噸	六、八〇〇噸
三菱造船所	七、三〇〇噸	一〇、八〇〇噸
三菱造船所	七、三〇〇噸	一〇、八〇〇噸

年次	英國	同本國	海峽殖民地	加奈陀	新西蘭	香港	印度	白耳	奧國	露國	丁牙	西班	瑞典	伊太	和蘭	合眾	獨逸	日本	佛國	諾威	支那	希臘	葡萄牙	希爾	羅馬	土耳	古
一九一五年	二九六	二四七	四	二一	五	六	二	二	二	二	二	二	二	三〇	二〇四	二〇	一四	一〇	七	九	一	一	一	一	一	一	一
一九一六年	三〇六	二八〇	三	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三〇	二〇	二〇	一四	一〇	七	九	一	一	一	一	一	一	一
一九一七年	三〇六	二八〇	三	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三〇	二〇	二〇	一四	一〇	七	九	一	一	一	一	一	一	一
一九一八年	三〇六	二八〇	三	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三〇	二〇	二〇	一四	一〇	七	九	一	一	一	一	一	一	一
一九一九年	三〇六	二八〇	三	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三〇	二〇	二〇	一四	一〇	七	九	一	一	一	一	一	一	一

最近五箇年世界造船趨勢

(總噸五百噸以上)

石川島造船所 (三,100噸) 五,100噸 三,500噸

□英米佛伊標準船型

世界戰爭の勝敗は其の所有する船舶の多寡に依りて決せらる可しと云へるが戰後に起る可き最も激烈なる貿易戰に於ける勝敗も亦船舶所有の多寡に依りて決せらる可し此に於てか聯合諸國の船舶を備へんとする努力前述の如きものあり而して船舶の建造を最も迅速且つ容易ならしめんことを標準型船を一定し其の材料の統一を計らざる可からず之れ列國が一齊に標準船型を制定したる所以にして其の詳細は嚴秘に附せられつゝあるを以て之を知るに由なしと雖も今日迄に判明せる所に依れば大體に於て左の如し

△英 國

船型 (重量噸數) (構造種類)

A型 八,000噸 單甲板

B型 八,000噸 二層甲板

石川島造船所 (三,100噸) 五,100噸 三,500噸

□世界造船所數 (一九一九—二〇年) (ロイド船名錄に據る)

船型	噸數	構造種類
C型	七,000噸	油槽船
D型	五,000噸	油槽船
E型	三,000噸	油槽船
F型	三,000噸	油槽船
標	三,000噸	油槽船
佛	三,000噸	油槽船
蘭	三,000噸	油槽船
西	三,000噸	油槽船
伊	八,000噸	單甲板
太	八,000噸	單甲板
利	八,000噸	單甲板
米	八,000噸	單甲板
英	八,000噸	單甲板

比叡	香洋	伊里斯	盤谷	豊崎	グレイスト	十三萬榮	十三萬榮	武洋	海久	ホストン	イースタン	イチヤント
浦賀船渠	内田造船	新田造船	浅野造船	第二朝日	彌生	檀山	トリス	トリス	トリス	トリス	トリス	トリス
玉津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津	大津
四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇	四、七三〇
朝春	與合	元永	管島	浮島	生島	伊島	野島	野島	野島	野島	野島	野島
播磨造船	鳥羽造船	帝國汽船造船部	浪速造船	三菱造船	三菱造船	三菱造船	三菱造船	三菱造船	三菱造船	三菱造船	三菱造船	三菱造船
五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇	五、五三〇
加	八重	神路	佐賀	夕顔	夕顔	夕顔	夕顔	夕顔	夕顔	夕顔	夕顔	夕顔
五、五三〇	六、八七五	六、八七五	六、八七五	六、八七五	六、八七五	六、八七五	六、八七五	六、八七五	六、八七五	六、八七五	六、八七五	六、八七五

伯刺西	上新嘉坡	季嘉坡	晚嘉坡	開嘉坡	美嘉坡	坡嘉坡	德嘉坡	隆嘉坡	船嘉坡	名嘉坡	川崎造船所	合計	九千噸型
亞爾然	漢口	智利	紐嘉坡	桑嘉坡	利嘉坡	華嘉坡	壽嘉坡	智嘉坡	船嘉坡	名嘉坡	川崎造船所	合計	九千噸型
亞爾然	漢口	智利	紐嘉坡	桑嘉坡	利嘉坡	華嘉坡	壽嘉坡	智嘉坡	船嘉坡	名嘉坡	川崎造船所	合計	九千噸型
五、八六〇	四、五〇〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	六、四三〇	一、五二〇
亞爾然	漢口	智利	紐嘉坡	桑嘉坡	利嘉坡	華嘉坡	壽嘉坡	智嘉坡	船嘉坡	名嘉坡	川崎造船所	合計	九千噸型
五、八六〇	四、五〇〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	六、四三〇	一、五二〇
亞爾然	漢口	智利	紐嘉坡	桑嘉坡	利嘉坡	華嘉坡	壽嘉坡	智嘉坡	船嘉坡	名嘉坡	川崎造船所	合計	九千噸型
五、八六〇	四、五〇〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	六、四三〇	一、五二〇
亞爾然	漢口	智利	紐嘉坡	桑嘉坡	利嘉坡	華嘉坡	壽嘉坡	智嘉坡	船嘉坡	名嘉坡	川崎造船所	合計	九千噸型
五、八六〇	四、五〇〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	五、八六〇	六、四三〇	一、五二〇

海安	五、七三	アラスカ	七、五〇〇	鐵山	二、一〇〇	函館船渠	三、七〇〇
室蘭	五、七五	アラゴワ	七、一五〇	三平	一、六〇〇	松尾鐵工	三、七〇〇
ダアバン	五、七〇	イースタン	五、一五〇	甲陽	三、〇〇〇	横濱船渠	三、七〇〇
福洋	七、一五〇	ビクトル	六、八七五	イースタン	三、七〇〇	ガイド	三、七〇〇
新東	三、八〇〇	諏訪山		コリスト	三、七〇〇	イースタン	三、七〇〇
十二相澤	二、二〇〇			石川島造船	三、七〇〇	アイスタ	三、七〇〇
廿二相澤	一、二〇〇			島海	一、二八二	アイスタ	三、七〇〇
十八霧島	一、〇〇〇			夕映	三、二〇〇	アイスタ	三、七〇〇
開平	二、七〇〇			三井造船	三、二〇〇	アイスタ	三、七〇〇
				原田造船	二、五〇〇	アイスタ	三、七〇〇

七原田	一、三〇〇	九州造船	一、三〇〇
直方	一、二五〇	堀田造船	一、二五〇
二射水	一、〇〇〇	大阪窯業	一、〇〇〇
三大信	二、二〇〇	小野造船	二、二〇〇
若宮	二、二五〇	松田造船	二、二五〇
六務島	一、三〇〇	乾造船	一、三〇〇
兵庫	一、〇〇〇	木津川造船	一、〇〇〇
金城	一、八五〇	東洋工業	一、八五〇

英國ロイドレスタターによる世界の重油使用船の戦前マ戦時との比較増減左の如し(單位噸)

英國	一九一九年	一九二三年
米國	一八八	一九二
獨逸	三三	四五
和蘭	三〇	二八
白利威	七五	九
伊太利	五	二
佛蘭西	四	三
露西亞	二	四
墨西哥	一	一
西班牙	一	一
羅馬尼亞	一	一

年次	米國	英國	獨逸	其他	總計
一九〇一年	一三,四七五	四,九〇五	六,三九〇	一,九〇〇	二二,七〇〇
一九〇四年	一三,八六〇	五,〇三三	八,七九〇	二,八〇〇	二二,〇〇〇
一九〇六年	一四,〇〇〇	六,四六〇	一〇,九三〇	三,一〇〇	二三,五〇〇
一九〇八年	一四,〇三三	六,四六〇	一〇,九三〇	三,一〇〇	二三,五〇〇
一九一〇年	一六,〇九五	六,三三五	一二,四八〇	三,一〇〇	二八,〇〇〇
一九一二年	二二,二五〇	七,八〇〇	一七,〇〇〇	三,一〇〇	四二,〇〇〇
一九一四年	三三,五二〇	七,八三五	二四,六二〇	三,一〇〇	六五,〇〇〇
一九一六年	四一,〇〇〇	八,五〇〇	三〇,〇〇〇	三,一〇〇	八三,〇〇〇
一九一八年	四四,〇〇〇	八,五〇〇	三〇,〇〇〇	三,一〇〇	八六,〇〇〇
一九一九年	四四,〇〇〇	八,五〇〇	三〇,〇〇〇	三,一〇〇	八六,〇〇〇

年次	米國	英國	獨逸	其他	總計
一九〇一年	一三,四七五	四,九〇五	六,三九〇	一,九〇〇	二二,七〇〇
一九〇四年	一三,八六〇	五,〇三三	八,七九〇	二,八〇〇	二二,〇〇〇
一九〇六年	一四,〇〇〇	六,四六〇	一〇,九三〇	三,一〇〇	二三,五〇〇
一九〇八年	一四,〇三三	六,四六〇	一〇,九三〇	三,一〇〇	二三,五〇〇
一九一〇年	一六,〇九五	六,三三五	一二,四八〇	三,一〇〇	二八,〇〇〇
一九一二年	二二,二五〇	七,八〇〇	一七,〇〇〇	三,一〇〇	四二,〇〇〇
一九一四年	三三,五二〇	七,八三五	二四,六二〇	三,一〇〇	六五,〇〇〇
一九一六年	四一,〇〇〇	八,五〇〇	三〇,〇〇〇	三,一〇〇	八三,〇〇〇
一九一八年	四四,〇〇〇	八,五〇〇	三〇,〇〇〇	三,一〇〇	八六,〇〇〇
一九一九年	四四,〇〇〇	八,五〇〇	三〇,〇〇〇	三,一〇〇	八六,〇〇〇

國名	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年
亞細亞	一,九〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,一〇〇,〇〇〇	二,二〇〇,〇〇〇
歐洲	三,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三,二〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
北米	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
南米	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
非洲	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
澳洲	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
總計	八,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇

國名	一九一三年	一九一四年	一九一五年	一九一六年
亞細亞	一,九〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,一〇〇,〇〇〇	二,二〇〇,〇〇〇
歐洲	三,〇〇〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	三,二〇〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇
北米	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
南米	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
非洲	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
澳洲	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
總計	八,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇	八,〇〇〇,〇〇〇

保
險

保 險

□ 戦時保険成績

戦時保険局より發表せる本年度第三回(六月)の戦時海上再保険事業報告に據れば件數百八十三、再保險金額三百四十五萬六千三十三圓再保險料三千四百四十六圓にして年度初め四月一日以降の累計は件數六百九件、再保險金額千三百六十四圓再保險料一萬千二百八十二圓に達せり之を表すれば次の如し(單位圓)

船 舶	輸 出 積 荷	輸 入 積 荷	積 荷 合 計	中 繼	總 額
件 數	五	一六	二一	一	一八
再保險金額	三九、七〇	三、四六、三五	三、四〇六、〇三	三、四〇六	三、四〇六
再保險料	三	三、四四	三、四四六	三、四四六	三、四四六

ば次表の如し(表中金額は千圓單位)

事業實施以來累計

船 舶	輸 出 積 荷	輸 入 積 荷	積 荷 合 計	中 繼	總 額	再保險金額	再保險料
件 數	六三七	一五〇、九六七	五、九八四	一八七、九五二	五、〇〇〇	一八、五七六	四、九三七、三三六
再保險金額	九四八、五〇	二、五四七、二四八	一、六三三、六八一	三、九八八、五八五	二七、六五六	四、九三七、三三六	四、〇〇五
再保險料	一一、三三七	一、一三七	四、二九三	二、八六二八	六、九五三	四、〇〇五	四、〇〇五

□ 八年度戦時海上再保險成績

次 月	件 數	再保險金額	再保險料
一 月	四、一七七	九〇、八〇九、四四五	四、五六、〇四八
二 月	二、七九七	七〇、八四六、一四〇	二、〇三、六二七
三 月	二、九七四	八四、九六七、〇六七	一、八二、五六七
四 月	二、五〇一	五九、八三七、七三八	一、四三、五二一

年次	汽船 減失 損傷	帆船 減失 損傷	汽船 死亡 負傷	帆船 死亡 負傷	合計	海難船及海難者
明治四十一年	元 四五	二八	六	一四	二八	二,三五五
大正二年	三 六三	一〇九	五〇	四	五九	一,四七〇
同三年	六 五五	九六	三	四	一〇二	一,二八五
同四年	七 六五	一三一	四	三	一〇七	一,〇三九
同五年	三 六四	一〇	一	五	一六	一,〇三九
同六年	五 六四	二六	五	八	一三	一,〇三九
同七年	九 八五	二八	五	一〇	一五	一,〇三九
合計	三六	一〇九	一四	四	三三	一〇,四八八

戦時船舶損害

對敵損害の船舶に關する要求高は總件三十一件其總額一億三千六百二十八萬九千七百七十八圓七十八錢にして其要求は辰馬汽船の千壽丸の一千十四萬九千八百五十二圓五十四錢を最高とし十二寄附丸の五萬九千二百二十四圓を最低に左の如き要求の申請を見たり

船名	損害金額	船主
眞盛丸	四,〇八二,一〇〇	原眞一
鹿兒島丸	五,二九一,八九	原眞一
小毛丸	四,三〇〇,七六〇	村井汽船
目毛丸	一,五六一,〇三四	村井汽船
澤雲丸	三,九一八,八九	大澤德太郎
第七機海丸	五,二二二,八〇三	中村精七郎
神越丸	四,六八五,五六五	神棧汽船
大越丸	五,四九四,四四六	神棧汽船
多喜丸	五,〇六七,六八九	箕井壽夫
青島丸	三,六三三,〇九九	山本唯三郎

船名	損害金額	船主
眞盛丸	四,〇八二,一〇〇	原眞一
鹿兒島丸	五,二九一,八九	原眞一
小毛丸	四,三〇〇,七六〇	村井汽船
目毛丸	一,五六一,〇三四	村井汽船
澤雲丸	三,九一八,八九	大澤德太郎
第七機海丸	五,二二二,八〇三	中村精七郎
神越丸	四,六八五,五六五	神棧汽船
大越丸	五,四九四,四四六	神棧汽船
多喜丸	五,〇六七,六八九	箕井壽夫
青島丸	三,六三三,〇九九	山本唯三郎

船名	損害金額	船主
眞盛丸	四,〇八二,一〇〇	原眞一
鹿兒島丸	五,二九一,八九	原眞一
小毛丸	四,三〇〇,七六〇	村井汽船
目毛丸	一,五六一,〇三四	村井汽船
澤雲丸	三,九一八,八九	大澤德太郎
第七機海丸	五,二二二,八〇三	中村精七郎
神越丸	四,六八五,五六五	神棧汽船
大越丸	五,四九四,四四六	神棧汽船
多喜丸	五,〇六七,六八九	箕井壽夫
青島丸	三,六三三,〇九九	山本唯三郎

臺	敦	山	壽	生	船	知	敦	亞	千	瑞	船	長	高	福			
北	賀	城	滿	川	名	多	島	丁	島	穗	名	野	砂	海			
二、四三	六、九八	三、四七	二、七七	一、七三	總噸數	五、三〇	七、九	五、八五	一、二七	一、二七	總噸數	三、八一	一、六七	六、七四			
三、一一	三、一八	二、一六	一、三〇	一、三〇	△其他	三、三	三、三	一、〇三	三、二九	三、二九	△行衛	三、八	三、七	三、三			
大阪	同	日本	大	攝	船	三、三	三、三	一、〇三	三、二九	三、二九	不明	三、八	三、七	三、三			
商	郵	商	商	主		齊	敦	國	日	神	船	同	日	臺			
同	同	同	同	事		藤	島	際	本	戶	主	同	本	海			
同	同	同	同	突		汽	汽	汽	汽	汽	主	同	本	海			
同	同	同	同	故		船	船	船	船	船	主	同	本	海			
筑	朝	橫	東	錦	ミ	櫻	海	能	國	大	日	一	鷹	湊	伏	十	
川	洋	濱	慶	江	カ	福	呂	後	州	海	敏	取	川	見	勝		
五、四五	六、一七	二、七二	二、八〇	一、九三	五、九四	三、八一	一、二二	四、〇三	一、〇八	三、〇〇	五、九	一、七八	一、七八	一、七八	一、七八	一、七八	
五、二七	同	五、二五	五、二二	五、二〇	五、二〇	五、二〇	五、二〇	五、二〇	同	四、二	同	四、二	四、二	四、二	四、二	三、二	
北	東	日	東	辰	田	大	櫻	勝	北	遞	小	尼	檜	松	大	日	金
日	洋	本	和	馬	中	阪	七	田	日	信	信	崎	崎	本	阪	本	森
本	汽	郵	汽	汽	鑛	商	汽	汽	本	會	泉	汽	汽	商	商	郵	汽
街	同	落	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
突	雷																

喜	北	鳳	美	神	末	三	二	玉	日	二	電	海	二	陽	七		
多	洋	成	蓉	威	廣	世	海	江	本	信	信	國	山	天	真		
五〇〇	九、九七	二、六六	一、二五	二、一五	一、四八	一、四八	一、四八	一、四八	五、九	五、九	二、九	六、九	三、二〇	七、一五	一、二二		
一、二三	一、二七	三、二九	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	三、二八	一、〇三	一、〇三	一、〇三	九、三	同	九、九	九、三		
三	山	英	東	丸	東	日	鈴	西	東	同	尼	佐	橋	太	原		
三	本	和	洋	洋	洋	下	木	洋	洋	汽	崎	藤	本	洋	商		
勢	厚	商	商	商	商	部	事	尾	船	船	船	國	船	海	運		
三	會	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二		
香	海	祥	西	若	神	擇	梅	金	神	神	千	西	波	營	大	福	神
港	弘	保	貢	狹	通	提	山	邦	島	川	京	津	口	明	國		
五、二四	一、〇九	一、三〇	四、四九	六、〇六	一、三七	四、一四	二、〇〇	五、一七	四、七六	一、三三	二、八四	七、九	一、八四	九、七	四、〇八	五、八六	
二、一六	一、一〇	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一	一、〇一
大	三	日	大	日	米	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
阪	井	下	阪	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
商	物	部	商	郵	郵	郵	郵	郵	郵	郵	郵	郵	郵	郵	郵	郵	郵
船	產	部	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船	船

十九八七六五四三二一月

月月月月月月月月月次

次	沈没	坐礁	火災	行衛不明	其他遭難
一隻數	一隻數	一隻數	一隻數	一隻數	一隻數
總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數
六〇一	三、五二九	五〇〇	五、八八八	一、二二七	二、三三〇
四、五八八	二、七六九	三、九四五	八、八七五	一、一九二	三、四一七
二、八三一	六、八九二	八、八七五	一、一九二	一、二二七	九、七三三
二、二八一	九、三三一	一、一七五	一、一七五	一、一七五	二〇、八四〇
二、六三一	三、〇〇三	五、一七五	一、一七五	一、一七五	三、三三六
一、六〇一	七、三七四	四、四一七	一、一七五	一、一七五	七、五四五
四、六〇八	一、三〇七	四、四一七	一、一七五	一、一七五	三、三六一
一、六〇九	二、三六一	一、一七五	一、一七五	一、一七五	二、〇一一
一、三〇九	七、七〇〇	一、一七五	一、一七五	一、一七五	一、七七五

八年遭難船月表 (當社調査)

劍山 三、七八〇
 敏山 三、一〇〇
 陽明 七、一五〇
 三井物産 同
 上野商會 同
 大野汽船 同
 大洋汽船 同
 日府 五、〇五六
 光府 一、五九三
 日本郵船 同
 田隆汽船 同

船名	噸數	船種	損傷	船名	噸數	船種	損傷
香港	九、九元	商船	突	伏見	一〇、九三五	郵船	機關損傷
大福	四、一	汽船	同	山崎	八、七	汽船	同
日南	二、三九	汽船	同	大阪	二、三六	商船	突
勝榮	五〇〇	汽船	同	同	同	同	同
秩父	一、五五五	汽船	同	同	同	同	同
臺南	三、二七一	汽船	同	同	同	同	同
海城	一、五八	汽船	同	同	同	同	同
西京	二、八四九	汽船	同	同	同	同	同
萬榮	二、六六	汽船	同	同	同	同	同
天長	二、九三	汽船	同	同	同	同	同
十五島	九、四五	汽船	同	同	同	同	同
敦賀	六、九八	汽船	同	同	同	同	同
一室	三、六	汽船	同	同	同	同	同
五札	二、三三	汽船	同	同	同	同	同
沙首	三、七三	汽船	同	同	同	同	同
二南	一、二七七	汽船	同	同	同	同	同
二東	五、七四	汽船	同	同	同	同	同
生田	一、七三	汽船	同	同	同	同	同
攝陽	八、九	商船	同	吾妻	四、三五九	汽船	同
大正	八、四	海運	同	營口	一、八四三	汽船	同
山下	七、八	汽船	同	靜洋	六、五五	汽船	同
農務	七、四	汽船	同	二御	七、六	汽船	同
犬上	七、四	汽船	同	廣運	一、三六	汽船	同
井上	六、九	汽船	同	神祐	一、六八	汽船	同
日本	六、六	汽船	同	綠祐	七、七	汽船	同
松田	六、二	汽船	同	檜國	九、八	汽船	同
辰馬	六、〇	汽船	同	海島	六、九	汽船	同
新田	六、二	汽船	同	六島	五、四	汽船	同
日本	六、九	汽船	同	二深	七、八	汽船	同
岸本	六、八	汽船	同	二久	七、五	汽船	同
大阪	六、八	汽船	同	千美	一、二五	汽船	同
丸山	六、四	汽船	同	布早	九、四八	汽船	同
鈴木	六、四	汽船	同	ビル	四、五八	汽船	同
武齋	六、一	汽船	同	嘉義	二、三六	汽船	同
橋本	六、一	汽船	同	福岡	二、六六	汽船	同
大坂	五、三	汽船	同	伏見	一〇、九三五	汽船	同

石
炭



十
二
月
一
一
四
三
四
三
七
〇
五
三
二
六
一
五
九
二
一
一
二
五
九
五
六
一
九
八
三
六

石 炭

□世界石炭需給前途

我國の石炭埋藏量は世界中第十一位にある第一位が北米合衆國で二位が支那それから獨逸、英吉利、西伯利亞、濠洲、印度、露西亞、奧匈國、佛領印度の順位で其次が日本である各埋藏量に就いて見れば我國は實に桁違ひの貧弱國である最近の調査に依れば左の如し

露西亞	印度	濠洲	西伯利亞	英吉利	獨逸	支那	合衆國
六〇、一〇六	七九、〇〇一	一六八、九二八	一七三、八七九	一八九、五三五	四二三、三五六	九九五、五八七	三、二二五、三九四

(單位百萬噸)

佛領印度 五九、二六九
 奧匈國 二〇、〇〇二
 日本 七、九七〇

而して歐洲戰爭後世界各國に於る石炭消費額の明白なる統計を得ざるが故に大正二年に於ける實績に依つて埋藏量百に對する比率を求めて見ると左の如くなつて居る。

加洲	濠洲	支那	白耳	露義	佛國	奧國	英吉利	獨逸	合衆國
三二	一一	一四	二六	三三	六〇	四九	一九四	二六一	五四四
〇〇	〇〇	〇〇	〇二	〇三	〇三	〇四	〇六	〇一	〇一
〇〇	〇〇	〇〇	〇三	〇三	〇三	〇四	〇六	〇一	〇一

大正二年消費額 (單位百萬噸)
 埋藏量百に對する消費額の比

日本 一八、二二三
右比率は五年前の統計に屬し現在に於ては其國々の工業發展の長短に依つて實情を異にするに至つて居る事は勿論であらうが佛國、白耳義と共に我國は最も石炭國としての壽命が短い部類に屬して居る。

世界の石炭産額 (一九一六)

國名	産出額 (千噸)	輸入額 (千噸)	輸出額 (千噸)
濠洲	二、七二〇	一六	三、八三三
澳洲	一、五九四	一三、三二七	一、三五二
白耳義	二、三〇三	九、九五五	七、一九四
英領印度	一、四七六	七三	八八一
英領喜望峯	二、四六九	六七	一、四三三
英領ナタル	二、四六九	六七	一、四三三
英領オレンヂ	四、四三三	六七	一、四三三
英領トランザール	四、四三三	六七	一、四三三
加奈陀	二、九九八	一、三六五	一、八六六
佛蘭西	三、九四三	二、二八六	二、四〇七
獨逸	一、七〇六	二、三〇七	四三、六七一

伊太利 九、八九六
日本 三、四三三
日蘭 二、二七六
新西蘭 二、五九八
露西亞 三、六〇五
西班牙 三、六〇五
瑞典 三、五五五
英吉利 三、〇二六
合衆國 五、〇二九

九州及山口縣産額
一九一六 七、〇七六
一九一七 七、九〇九

本邦炭界趨勢
昨年度の石炭界は未曾有の繁忙を極め炭價の暴騰は勿論各炭坑主が全力を傾注して産炭増加に努めたるも尙常に供給不足を繼續せる盛況なりき以下昨年中の参考諸統計を示さん。

△全國炭産額
一九一六 一、八五二、三五八
一九一七 二、〇三三、四五一
一九一八 一、八二九、〇四九
一九一九 二、一五七、六〇五
一九二〇 二、三三二、六〇〇

大正元年 一九、六九八
同二年 二一、三二五
同三年 二二、二九五
同四年 二〇、四七〇
同五年 二二、九一〇
同六年 二二、五五四
同七年 二二、八五三
同八年 一、

次に全國各重要炭山出炭月別内容左の如し(十一月迄)

月別	七年	六年
一月	一、八九九、八〇四	一、七〇七、九二七
二月	一、八二五、六三七	一、七二七、四一五
三月	二、二二三、八六七	二、〇三八、二八三
四月	二、〇五七、三六四	二、〇〇六、二二二
五月	二、〇六〇、七二二	二、〇三四、二二三
六月	一、九六四、四八三	一、九一八、九〇一
七月	一、八三二、〇五七	一、九一四、〇〇三
八月	一、六六五、五五〇	一、七九四、五七一

同以上の合計を各府縣に區別して對比すれば左の如し

大正七年 大正六年

府縣別	大正七年	大正六年
北海道	三、二〇四、四八〇	二、九八五、三二二
福島縣	一、七六三、〇七一	一、五三五、七四七
茨城縣	六四七、九三七	五二五、六六六
長崎縣	九九二、〇五八	一、〇〇七、八三〇
山口縣	七九〇、〇五七	九六四、七九
福岡縣	二、三三二、〇三五	二、二七九、七三三
佐賀縣	一、六八七、四七七	一、六八五、六一
計	二、一五七、六〇五	二、一三二、〇〇〇

尙月別九州山口産額は

月別	八年	七年
一月	八三二、〇四六	八二九、六五八
二月	八〇一、八八二	八三五、五六一

三	月	一〇一、八九六	九三、〇九五
四	月	一〇三、三三八	九三、三二〇
五	月	一〇七、〇六九	八五、四七七
六	月	九三、六六六	九六、八八七
七	月	九三、七二六	八二、六四五
八	月	八八、〇三三	七三、〇九三
九	月	九六、三四九	八八、〇三三
十	月	九六、三四一	八九、二二三
十一	月	九七、二二八	七八、八九九
十二	月	一〇〇、三〇九	八九、二二〇
計		二、三三、〇三三	一〇、三六、〇九元

次に全國主要炭産地別數量(六年度)内容左の如し

筑豊炭	一〇、二八〇	常盤、元山炭	三、四八三
唐津炭	一、二四九	北海道炭	五、八八七
三池炭	一、六〇〇	臺灣、朝鮮炭	八、八九
枅島炭	五、五七	其他炭	一、八三五
肥前炭	一、六〇六		

而して更に最近十年間に於ける需要増進の状況を記すれば

明治四十三年	七、二八四、六〇八
同 四十四年	七、七九四、五六四
同 四十五年	八、七六一、七一〇
同 四十六年	九、六七九、三〇五
同 四十七年	八、九三七、三〇五
同 四十八年	八、三九二、八〇七
同 四十九年	九、四一八、五五六
同 五十年	一〇、六五五、七一〇
同 五十一年	一六、六三五、七二八
同 五十二年	一一、五〇〇、〇〇〇

需要増加趨勢

昨年中の需要概算は一千百五萬五千餘噸に達せるが其内譯を舉ぐれば海外輸出は六十一萬三千九百六十四噸にして前年に比し十三萬噸を減するも内地消費高(両若倉及び宇の島より水路供給するもの)は七百十六萬四千四百六十四噸に達し前年より増加する事二十五

萬噸、其他外國汽船燃料炭は十五萬二千五百六十噸、内國船燃料炭百四十六萬五千八百四噸を算し前者は二萬八千噸、後者は四十三萬餘噸の激増となり又九州方面に於ける地元消費高は百六十五萬八千三百九十五噸に達し是亦十七萬二千餘噸の増進なり要するに需要は海外輸出に於て少額の減退を示せる外一般に逐年増加せるものと知るべし。

次に海外輸出は前記の如く六十一萬三千噸にして前年に比し一割八歩の減退を示せるが之が仕向地別を以て前年との消長を左に示さん。

上海	八	年	一七二、八六〇	七	年	一三三、三五六
香港	一〇一、六三三	一三五、六七四				
馬尼刺	五九、二八三	二七、一八六				
大連	四九、六六八	一四〇				
浦島	四六、〇一〇	三、四九〇				
青島	一三、九二二	三、七三〇				
漢口	一〇、三三八	五、七二三				

牛莊	九、五〇三	八、一七九
安南	八、一七九	七、五五六
新嘉坡	七、五五六	四、五二四
芝罘	四、五二四	三、五九七
蕪湖	三、五九七	二、〇二七
汕頭	二、〇二七	一、八〇三
瓜哇	一、八〇三	一、四〇三
旅順	一、四〇三	一、二九八
鎮江	一、二九八	一、〇〇〇
古倫	一、〇〇〇	六〇〇
盤谷	六〇〇	五〇〇
智利島	五〇〇	四〇〇
秦皇島	四〇〇	三〇〇
福州	三〇〇	二〇〇
大板	二〇〇	一〇〇
大板	一〇〇	一〇〇
彼南	一〇〇	一〇〇
西貢	一〇〇	一〇〇

パリラン	二、六六五	
カラチー	二、二〇〇	
廣東	一、六四五	
荻波	一、五九一	
寧波	一、一九三	
厦門	一、二六六	
南洋	九〇	
亦内地需要は九州各地元を除き七百十六萬四千噸にして仕向港別に據る主要地の十一月迄に至る數量の前の比較を示さん。		
仕向地	八	七
大阪	二、七二一、三六一	二、〇四三、七三六
神戸	六五、一三三	六四、〇五一
横濱	四三、三三五	四九、七三二
吳田	二八、八七二	一九、六八七
熱田	三〇、三七四	一七、五五四
朝鮮各地	一八三、〇三八	二一、三三二
下關	一三、七一九	二六、五二六

和歌山	一三、〇六〇	
飾磨	一三、六二七	
尾崎	一〇四、五三三	
岸田	九六、六九三	
名古屋	九四、七七九	
岡田	八五、九八四	
半田	七四、二六一	
宇野	七三、六一五	
高砂	七一、二八三	
糸崎	六五、三九九	
彦島	五九、九三五	
四島	五五、六六一	
堺島	五三、六七四	
堺市	五一、五六〇	
四日市	五二、五六〇	
積出港に區別して前年と對比すれば若松は六百四十二萬二千噸にして十七萬噸を増し門司は四十三萬四千餘噸にして三千噸を減じ宇の島は十二萬四千噸にして一萬千噸を増し東西小倉は十八萬三千餘噸にして七萬千		

餘噸の増加なり。
尙舶用炭も外船燃料炭は平和來と共に外船の東洋來航漸次増加し昨年十一月よりは米國炭坑罷業の餘波とし燃料を門司港に積載するもの激増し門司、若松兩港の合計は十五萬二千五百六十噸を上るに至れり今之を前年と對比せんか實に二割三歩の増加なるが本年は更に一層の膨脹を來すならんを期待せらる又内國船燃料も百四十六萬五千八百四噸にして前年に比し四十三萬六千二百三十三噸の増加なり。
△門若貯炭趨勢

七月末	三〇八、〇二一	一五三、六八四	一三三、四八一	七五、四四七
八月末	三二八、六六五	一三三、五六〇	一〇九、九六三	七九、六三三
九月末	三三九、一三六	二二五、九四八	一三三、三三〇	六八、七八二
十月末	三六五、四七三	一七九、六〇五	一三三、四三〇	八二、七三〇
十一月末	三七八、五二三	一三四、〇六三	一〇一、五〇〇	四三、四六九
十二月(五日)	三六三、二二六	一七二、六二七	一〇七、二二六	四九、四三四
△八年度汽船運炭貨(門司港)				
横濱	四、八〇〇	五、〇〇〇	九、〇〇〇	一六、〇〇〇
上海	三、七〇〇	三、〇〇〇	八、〇〇〇	一四、〇〇〇
香港	四、〇〇〇	三、七〇〇	五、五〇〇	九、〇〇〇
新嘉坡	四、〇〇〇	二、八〇〇	五、〇〇〇	七、〇〇〇
	三、五〇〇	二、九〇〇	五、〇〇〇	七、〇〇〇
	三、五〇〇	三、一〇〇	五、〇〇〇	七、〇〇〇
	五、〇〇〇	三、四〇〇	八、五〇〇	八、〇〇〇
	五、〇〇〇	三、四〇〇	一〇、〇〇〇	一三、〇〇〇
	五、〇〇〇	三、四〇〇	八、〇〇〇	一三、〇〇〇

七	六	五	四	三	二	一	同	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三
月	月	月	月	月	月	月	年	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
六,九〇	六,五〇	六,三〇	六,二〇	六,一〇	五,〇〇	五,〇〇	五,〇〇	五,〇〇	五,〇〇	五,〇〇	五,〇〇	五,〇〇	五,〇〇	五,〇〇	五,〇〇	五,〇〇	
四,八五	四,六〇	四,四〇	四,三〇	四,二〇	四,一〇	三,九〇	三,七〇	三,五〇	三,四〇	三,三〇	三,二〇	三,一〇	三,〇〇	二,九〇	二,八〇	二,七〇	
五,七〇	五,五〇	五,三〇	五,二〇	五,一〇	四,九〇	四,八〇	四,七〇	四,六〇	四,五〇	四,四〇	四,三〇	四,二〇	四,一〇	四,〇〇	三,九〇	三,八〇	
四,九〇	四,八〇	四,七〇	四,六〇	四,五〇	四,四〇	四,三〇	四,二〇	四,一〇	四,〇〇	三,九〇	三,八〇	三,七〇	三,六〇	三,五〇	三,四〇	三,三〇	
三,四〇	三,三〇	三,二〇	三,一〇	三,〇〇	二,九〇	二,八〇	二,七〇	二,六〇	二,五〇	二,四〇	二,三〇	二,二〇	二,一〇	二,〇〇	一,九〇	一,八〇	

十	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	同	十	十	十	九	八
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	年	月	月	月	月	月
一八,五〇	一八,五〇	一八,〇〇	一七,五〇	一七,〇〇	一六,五〇	一六,〇〇	一五,五〇	一五,〇〇	一四,五〇	一四,〇〇	一三,五〇	一三,〇〇	一二,五〇	一二,〇〇	一一,五〇	一一,〇〇	
一五,〇〇	一五,〇〇	一四,五〇	一四,〇〇	一三,五〇	一三,〇〇	一二,五〇	一二,〇〇	一一,五〇	一一,〇〇	一〇,五〇	一〇,〇〇	九,五〇	九,〇〇	八,五〇	八,〇〇	七,五〇	
一六,〇〇	一六,〇〇	一五,五〇	一五,〇〇	一四,五〇	一四,〇〇	一三,五〇	一三,〇〇	一二,五〇	一二,〇〇	一一,五〇	一一,〇〇	一〇,五〇	一〇,〇〇	九,五〇	九,〇〇	八,五〇	
一四,〇〇	一四,〇〇	一三,五〇	一三,〇〇	一二,五〇	一二,〇〇	一一,五〇	一一,〇〇	一〇,五〇	一〇,〇〇	九,五〇	九,〇〇	八,五〇	八,〇〇	七,五〇	七,〇〇	六,五〇	
三,五〇	三,五〇	三,〇〇	三,〇〇	二,五〇	二,五〇	二,〇〇	二,〇〇	一,五〇	一,五〇	一,〇〇	一,〇〇	〇,五〇	〇,五〇	〇,〇〇	〇,〇〇	〇,〇〇	

十	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月	十	十
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
三,八〇	三,八〇	三,七五	三,七〇	三,六五	三,六〇	三,五五	三,五〇	三,四五	三,四〇	三,三五	三,三〇	三,二五	三,二〇	三,一五
六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇	六,〇〇
三,二〇	三,二〇	三,一五	三,一〇	三,〇五	三,〇〇	二,九五	二,九〇	二,八五	二,八〇	二,七五	二,七〇	二,六五	二,六〇	二,五五
二,四〇	二,四〇	二,三五	二,三〇	二,二五	二,二〇	二,一五	二,一〇	二,〇五	二,〇〇	一,九五	一,九〇	一,八五	一,八〇	一,七五

二	一	同	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	大	年
月	月	年	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	正	月
四,〇〇	四,〇〇	三,九〇	三,八〇	三,七〇	三,六〇	三,五〇	三,四〇	三,三〇	三,二〇	三,一〇	三,〇〇	二,九〇	二,八〇	二,七〇	二,六〇	二,五〇
四,七〇	四,七〇	四,六〇	四,五〇	四,四〇	四,三〇	四,二〇	四,一〇	四,〇〇	三,九〇	三,八〇	三,七〇	三,六〇	三,五〇	三,四〇	三,三〇	三,二〇
三,八〇	三,八〇	三,七〇	三,六〇	三,五〇	三,四〇	三,三〇	三,二〇	三,一〇	三,〇〇	二,九〇	二,八〇	二,七〇	二,六〇	二,五〇	二,四〇	二,三〇
四,〇〇	四,〇〇	三,九〇	三,八〇	三,七〇	三,六〇	三,五〇	三,四〇	三,三〇	三,二〇	三,一〇	三,〇〇	二,九〇	二,八〇	二,七〇	二,六〇	二,五〇

ニューヨーク	同	三、三	六、三
ヒヤチモア	同	三、三	六、三
バルチモア	同	三、三	六、三
ノーフォーク	同	三、三	六、三
セウオールズボ	同	三、三	七、五
イント	同	三、三	七、五
ニューボトニユース	同	三、三	七、五
ウイリントン	同	五、五	七、九
チャーレストン	同	五、五	六、五

□世界重油供給港

世界産炭額の減少に伴って船舶の燃料は之れを石炭に俟たずして重油を以て充當すべく英米には既に重油船を建造し使用しつつあるが其成績大に見るべきものあり將來世界の産炭額の減少炭價の騰貴に處する海運界の政策として重油船使用は之れ列國の海運競争上最も有利なるべしと主張され居るも而も世界の重油産地及び之れが供給港に就いて見るに日本は殆ど問題以外にして洵に寒心すべき状態なり左に世界の供給港の重

要なるものを示さん。	
△加奈陀大西洋岸地方	
供給港	供給能力
ハリファックス	三〇〇,〇〇〇
モントリール	一〇〇,〇〇〇
△加奈陀太平洋岸地方	
プリンスルバート	一〇〇,〇〇〇
バンクバー	二五〇,〇〇〇
同	三三〇,〇〇〇
ビクトリヤ	二〇〇,〇〇〇
ベラクルズ	一八〇,〇〇〇
タックスパン	五五〇,〇〇〇
△西印度地方	
同	五〇〇,〇〇〇
セント・トーマス	二四〇,〇〇〇
同	一〇〇,〇〇〇
△東カリビアン地方	
ウイルムタツド	七〇,〇〇〇
同	五五,〇〇〇
ジョージタウン	一
パラマソボ	一
プライイトン	一
ポイント・フォ	一
イチン	一
ボート・オパス	六〇,〇〇〇
同	一

サイエンフューイ	一〇〇,〇〇〇	ウエストインディア	同	ホーマテク・ベトロ
ハバナ(攻馬)	一三〇,〇〇〇	オイル会社	同	リユム会社
マタンザス(同)	一五〇,〇〇〇	ミンクレアキユー	同	アンダロメキシカ
同	一〇〇,〇〇〇	バンクオイル会社	同	アンダロリユーム
同	一〇〇,〇〇〇	ウエスト・インディア	同	イースト・アジアテ
同	一〇〇,〇〇〇	オイル会社	同	イツク会社
同	一〇〇,〇〇〇	テキサスオイル会社	同	ウエスト・インディア
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	ア・オイル会社
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	ローヤル・ダツチシ
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	エル会社
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	ウエスト・インディア
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	ア・オイル会社
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	トリンタツドレーク
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	ベトロリコム会社
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	プリテイツシ・ウエ
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	スト・インディアス・シ
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	ンチケート
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	トリニダツト・リー
同	一〇〇,〇〇〇	同	同	ズボルド会社

海事關係者

三、三〇	二、五〇	二、三〇	二、二〇	二、一〇	二、〇〇	一、九〇	一、八〇	一、七〇	一、六〇	一、五〇	一、四〇	一、三〇	一、二〇	一、一〇	一、〇〇	同
曳船船賣買	海運業	造船業	造船修理販賣	造船製造販賣	造船業船賣買	造船業船賣買	造船業船賣買	造船業船賣買	造船業船賣買	造船業船賣買	造船業船賣買	造船業船賣買	造船業船賣買	造船業船賣買	造船業船賣買	造船業船賣買
佐賀伊萬里海汽船	大阪攝津汽船	大阪木津川船渠	東京墨田川造船所	青森湊造船鐵工	廣島新見造船鐵工	京都舞鶴造船鐵工	北海道小樽造船鐵工	船製造造船修理北海道	船製造造船修理北海道	船製造造船修理北海道	船製造造船修理北海道	船製造造船修理北海道	船製造造船修理北海道	船製造造船修理北海道	船製造造船修理北海道	船製造造船修理北海道

一、三〇	一、二〇	一、一〇	一、〇〇	九、〇〇	八、〇〇	七、〇〇	六、〇〇	五、〇〇	四、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	一、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業	石炭コークス業
東京中増商事	兵庫紅屋コークス	東京更級炭礦	備後花本石炭商會	大阪東洋コークス	門司清友商事	橫濱神奈川コークス	東京中島商事	東京還元資料	大阪日本運輸	領兒島鹿兒島石炭賣買	神戶吉井炭礦	東京東京商事	東京共益炭業	東京山崎商事	東京山崎商事	東京山崎商事

(三) 海運業者

□神 戸

榮町三丁目五九四
東出町一丁目九一
榮町二丁目八四
同 三丁目
海岸通二丁目
前町
榮町二丁目
同 同
仲町四十四
磯部通四丁目九八
同 三丁目
榮町二丁目四九
榮町四丁目
海岸通三丁目

合資會社一進商會
入江回漕會社
井上合資會社
井田商店出張所
井上信太郎商店
伊地知事務所
岩田商店
岩井商店支店船部
岩崎商店
池田弘運商會
伊東最商會
泉東商會
犬上船部

北長狹通四丁目
海岸通三丁目
海岸通二丁目
海岸通一丁目
下山手通六丁目
播磨町十六番地
海岸通二丁目
三宮一丁目
海岸通二丁目
榮町三丁目五六三
播磨町十七
海岸通六丁目
同 二丁目
明石町四十七
仲町川崎ビルデング

伊藤長藏船部
生尾商會
板谷商會出張所
羽本汽船事務所
橋本汽船會社
橋谷株式會社
濱根商店出張所
濱田商店
播磨商店
原田回漕會社
日本郵船會社支店
日本商船會社
日本汽船株式會社
日本汽船株式會社
日本運出出張所
日星商會
日新商會
日新商會

海岸通二
京町六十九
海岸通四丁目
榮町二丁目四六日本海上内
榮町三丁目
同 同
仲町川崎ビルデング
海岸通三丁目
榮町通三丁目五十一
兵庫新川住吉前
北長狹通五丁目
海岸通二丁目
榮町三丁目二十五
加納町
仲町川崎ビルデング
播磨町
榮町四丁目
元町三丁目

日洋海運商會
西川商會
西谷運輸株式會社
西谷芳吉商會
新田汽船船部
二宮商會
株式會社日英商會
本間組回漕會
便宜運漕部出張所
東和汽船株式會社
東洋汽船株式會社
東洋運輸株式會社
東和公司出張所
東洋汽船會社出張所
巴組神戸出張所
巴組商會

榮町三丁目
明石町三十番
海岸通三丁目
同 同
元町通七丁目
明石町三十九
海岸通二丁目
京町六十九
海岸通三丁目
榮町三丁目
同 五丁目
浪花町五十六
海岸通二丁目
同 六丁目
榮町六丁目
同 同
同 五丁目
海岸通二丁目

豐崎汽船株式會社
德島商店支店
道木商會出張所
枋木商會出張所
中外汽船株式會社
小川逸治商會
小栗合資會社
大原商會
小野野登一郎店
小野野船部
岡田汽船會社出張所
岡崎汽船株式會社
岡崎汽船株式會社
大津屋商會
尾崎汽船會社出張所
尾崎商會
大關商會出張所
大阪商船會社支店

富岡町一丁目
南濱町四丁目
同四丁目
色内町六丁目
辨天町
同廣町
末廣町
元廣町
東濱町
大町三十二
船場町
富岡町
神岡町
末廣町

館

清田回漕店
鹽田回漕店
七川商會
關川商會
岩井商會
橋谷商會
濱根商會
巴港商會
函館商會
函館商會
橋本商會
日本郵船會社支店
幡豆商會
西澤商會
日洋汽船會社
土井汽船會社
元仲西富仲
濱濱濱岡濱
仲岡濱
西濱濱
仲濱濱
船場
幸町九番地
辨天町
元仲濱
仲濱
鍛冶町十
會所
末廣町

北海汽船株式會社
北島汽船株式會社
千島汽船株式會社
尾崎汽船株式會社
小川合名會社
和島汽船株式會社
川口商會
金森商船株式會社
金野商會
金田商會
合資會社
田中善三郎商會
谷又太郎商會
高辻商會
成田商會
中村商會
內川商會
日下部株式會社支店

稻穗町
南濱町
手宮町三丁目
入舟町四丁目
南濱町四丁目
色内町五丁目
色内町六丁目
稻穗町東八丁目
同西四丁目
花園町西二丁目
色内町六丁目
南濱町六丁目
稻穗町舟見通
靜屋通
南濱町四丁目
色内町三丁目七〇
南濱町四丁目
南濱町三丁目
南濱町三丁目

服部源助
四谷回漕店
日本郵船會社支店
北海林業株式會社出張所
大竹回漕店
大西汽船會社支店
小栗合資會社支店
小野田二郎商會
小野田汽船會社
小田桐商會
嘉洋汽船株式會社
海陸運輸株式會社
吉田榮商會
吉野商會
高辻汽船會社
田所商會
棚橋商會
久野回漕店
山本船漕部

稻穗町東七丁目
花園町東二丁目
稻穗町西七丁目
南濱町六丁目七
小樽區
色内町五丁目
山上町
北濱町五丁目
花園町西二丁目
色内町四丁目
同
花園町西三ノ一五
北濱町四丁目
北濱町三丁目
北濱町三丁目
北濱町三丁目
南濱町一丁目
出ノ上町

山田商會
山田商會
山田商會
山田商會
山田商會
丸谷商會
松田商會
增田商會
藤山商會
五井商會
荒井商會
荒井商會
佐藤商會
佐藤商會
北日本汽船會社出張所
三井商船會社出張所
三井商船會社出張所
新宮商會
敷島汽船會社

(五) 保險業

東 京

日本橋區鏡河岸
京橋區南八丁堀
丸ノ内
同
橋區疊町
日本橋區通四丁目
麴町區八重洲町一丁目
日本橋區元革屋町
京橋區疊町
同 八官町
丸ノ内
日本橋區北鞘町

日本海上保險會社支店
日章火災海上保險會社
日清火災海上保險會社
東京海上火災保險會社
東洋海上保險會社
中外海上保險會社
大阪海上火災保險會社支店
橫濱火災海上保險會社
第一火災海上再保險會社
大正海上保險會社
大東海上保險會社支店
太平洋海上保險會社支店
扶桑海上保險會社
帝國海上運送火災保險會社

丸ノ内 横

本町二丁目
本町二丁目
本町五丁目
東區北久太郎町
西區江戶堀南通
西區靱南通
北區曾根崎
東區高麗橋四
同 博勞町二
北區安治川上通一
西區江戶堀北通一

濱

朝日海上保險會社支店
三菱海上保險株式會社
日本海上保險會社出張所
日清海上火災保險出張所
大阪海上火災保險會社
橫濱火災海上保險會社
扶桑海 出張所
日清火災海上保險會社
日本海上保險會社
日章火災海上再保險會社
豐國火災海上保險會社
東京海上火災保險會社
東洋海上保險會社支店
中外海上保險會社
大阪海上火災保險會社
橫濱火災海上保險會社支店

戶

東區高麗橋三
堂島濱通一丁目
西區江戶堀北通一
東區瓦町
北區堂島船大工町
西區土佐堀裏町
西區靱南通四丁目
北區堂島濱通三
同 中ノ島四丁目
東區本町四丁目
北區梅田新道
西區川口町
同 神
榮町四丁目
海岸通二
海岸通四
前町十二

第一火災海上保險會社
大福海上火災保險會社
大東海上保險會社
大正海上保險會社支店
太平洋保險株式會社
八千代海上保險會社
大和帆船海上保險會社
扶桑海上保險會社支店
神戶海上保險會社支店
帝國海上火災保險會社支店
共同火災保險會社
攝津海上保險會社
日本海上保險會社支店
日東海上火災保險株式會社
日清火災海上保險出張所
東京海上保險會社支店
大阪海上火災保險會社支店

地

榮町四丁目
海岸通三丁目
仲町三十五
明石町三十番地
榮町二丁目
明石町
浪花町二六
榮町三丁目
京町八十二
兵庫縣武庫郡西宮町
同 各
名古屋市中區新柳町
同
同 西區玉屋町一丁目
福岡市橋口町
博多下新川端町十五
金澤市十間町
同 上堤町三十番地

橫濱火災海上保險會社支店
大正海上保險株式會社
大福海上火災保險會社支店
太平洋海上保險會社
扶桑海上保險會社支店
神戶海上火災運送保險會社
大和帆船海上保險會社出張所
帝國海上運送火災保險會社
朝日海上保險會社
辰馬海上火災保險株式會社
大阪海上火災保險會社出張所
日清火災海上保險會社出張所
橫濱火災海上保險會社支店
大阪海上火災保險會社出張所
橫濱火災海上保險會社支店
大阪海上火災保險會社出張所
橫濱火災海上保險會社支店

次 支店 長 席
 △神戶支店
 次 支店 長 席
 △高松支店
 主 席 店 員
 △高知支店
 主 席 店 員
 △高濱支店
 主 席 店 員
 △門司支店
 次 支店 長 席
 △別府支店
 主 席 店 員
 △長崎支店
 主 席 店 員

染 矢 寬 德
 島 村 幡 一 彦
 赤 石 右 一
 大 山 國 太 郎
 小 林 民 吉
 廣 野 猛 逸
 諏 訪 禮 三 郎
 森 田 初 三 郎
 久 保 勝 之 進
 伊 藤 太 之

支店長心得
 △鹿兒島支店
 支店長心得
 △那覇支店
 支店長
 △基隆支店
 次 支店 長 席
 △臺北出張所
 主 席 店 員
 △臺南支店
 次 支店 長 席
 △打狗支店
 支店長(兼)
 △釜山支店
 支店長心得

關 次 郎
 宮 地 源 馬
 樋 口 榮 三 郎
 朝 垣 榮 三 郎
 柴 田 盾 朴
 河 野 龜 裕 治
 河 野 龜 裕 治
 鳥 谷 三 龜 治
 小 林 縣 一

次 課 長 席
 △遠洋課
 次 課 長 席
 △南洋課
 次 課 長 席
 △東洋課
 次 課 長 席
 △海務課
 課長事務取扱
 次 席 監 督
 △工務課
 次 席 技 師

平 木 松 村 憲 夫 清
 中 村 田 榮 省 藏
 山 村 內 治 一 郎 恕
 野 村 治 一 郎
 上 田 谷 金 助 績
 武 田 金 助 績
 太 田 丙 子 一 郎
 庄 田 九 一 郎
 中 田 根 丈 經 夫 三
 和 田 丈 經 夫 三

課 長 心 得
 △計理課
 次 課 長 席
 △調度課
 次 課 長 席
 △調查部
 主 任
 ◎支店
 △東京支店
 支店長事務取扱
 次 支店 長 席
 △橫濱支店
 次 支店 長 席
 △大阪支店
 支店長

岡 田 永 太 郎
 木 下 昌 吉
 石 崎 震 二 郎
 鹿 子 木 彦 二 郎
 松 原 季 久 郎
 深 尾 隆 太 郎
 大 津 久 介
 渥 美 育 二 郎
 駒 田 萬 二 郎
 阿 部 萬 平

副支配人
 △臺灣支店長支配人
 同 副支配人
 △新嘉坡支店長支配人
 △橫濱出張所主任
 △門司出張所主任心得
 △香港出張所主任
 △倫敦駐在
 △紐育駐在
 △プエノスアイレス駐在
▲勝田汽船株式會社
 專務取締役社長
 專務取締役
 常務取締役
 取締役
 同 取締役
 監査役

磯村正之
 内藤正太
 松尾恒四
 中野重四
 立野治平
 金井健治
 鶴木素夫
 小林嘉武
 小崎守一
 柴崎夏
 荒木夏
 勝田銀次
 村田銀次
 青木彌太
 門司宗太
 中川周
 中西德

同 △幹部
 庶務課長
 營業課長
 會計課長
 監督課長
 △東京出張所主任
▲岸本汽船株式會社
 取締役社長
 取締役
 同 取締役
 同 監査役
 同 運輸課長
 監督課長
 秘書課長兼庶務課長
 人事課長
 經理課長

小田半平
 友澤安高
 吉田利一
 萬代顯男
 門司宗常
 鮎江常三
 岸本兼太
 岸本五兵衛
 岸本之助
 岸本萬助
 岸本盛太
 岸本太盛
 岸本武治
 平山豐治
 大野阪太

小樽出張員主席
 香港出張員
 米國派出員
 倫敦派出員
▲三菱商會社船舶部
 船舶部長
 同部庶務課長兼營業課長
 主船課長
 船舶部在勤
▲山下汽船株式會社
 取締役社長
 專務取締役
 常務取締役
 取締役
 同 營業部長
 同 監査役
 △幹部

宮木健治
 木村岩五
 中馬進
 崔部進
 粟屋七郎
 早川茂三
 伊達民一
 曾谷隆一
 山下龜三
 鑄谷正三
 畑谷正三
 松木幹一
 林武平
 玉井周吉
 町田千代

營業副長
 社船課長
 近海課長
 外國課長
 貨物課長囑託
 海務課長
 工務課長
 文書課長
 調查課長
 庶務課長
 用度係主任
 經理課長囑託
 經理課代理
 經理課整理記帳係主任
 經理課出納係主任
 課長待遇技師
 技師
 △東京支店長支配人

白城忠一
 宮田正之
 田中正之
 田中周吉
 田井周吉
 鎌田虎彦
 川崎重二
 伊藤重治
 伊藤重治
 伊藤重治
 箕輪益夫
 田中幹一
 白城中一
 坪井俊三
 杉江潤三
 北島基治
 勝島直治
 矢野榮一
 今西三郎

△長崎支店長
△若松出張店長
△高松出張店長
△群山出張店長
▲神戸商船株式會社
取締役社長
常務取締役
取締役
同 監 査 役
同 技 師 部
▲松昌洋行(東京)
社 取 締 役 長
同 取 締 役
同 監 査 役

岡山 眞三
高橋 逸象
福井 政太
松村 實造
勝田 銀次
松本 博
福井 捨市
松井 久男
四井 喜一
上西 龜之助
宮崎 義親
山本 唯三
小川 榮喜
奥村 彌平

營業部長
船部部長
▲岡崎汽船株式會社
取締役
同 監 査 役
同 取 締 役 長
▲太陽汽船株式會社
取締役社長
同 監 査 役
同 取 締 役 長
▲金森商船株式會社
社 取 締 役 長
同 常 務 取 締 役
同 取 締 役

小川 二平
岡崎 藤吉
岡崎 忠一
石丸 英一
川島 稅一
小(東) 壽一
小林 駿一
小野 太一
太田 秀雄
小樽 孝平
渡邊 作平
角谷 一平

監督課技師
同 監 査 役
▲武齋汽船株式會社
取締役社長
取締役
支 配 人
社 取 締 役 長
專務取締役
取 締 役
監 査 役
△神戸出張所長
主 任
▲林汽船株式會社(大阪)
取締役會長
取 締 役
同 同

小川 龍三
根布 福三
武内 才吉
武内 進三
伊藤 金市
岡田 信作
岡田 信吉
渡邊 英吉
松田 專次
岡田 萬吉
下西 萬吉
中尾 直太
甲賀 卯吉
寺西 常治
松元 千代助

同 兼 支 配 人
同 監 査 役
副 支 配 人
▲尻ヶ崎汽船部(大阪)
汽船部長代理
營業課長
同 助 理
經理課長
理事會主事
配船主任
計算係主任
△大阪支店長代理
同 助 理
△下關支店長
同 助 理
△神戸支店長

山中 福之助
豐永 政吉
阿部 克太
野元 修吉
川上 修吉
阪) 本長 太郎
牧本 長太郎
松本 長太郎
水田 政吉
大倉 政吉
谷倉 米清
銚原 米清
大倉 正一
黒柿 和泉
高橋 逸泉
菅野 誠治
仙石 榮治

△函館支店主任

▲川崎汽船株式會社

專務取締役

取締役

同

同

同

同

同

同

▲福川汽船株式會社

取締役社長

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

▲樺太汽船株式會社

副社長

常務取締役

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

▲組合汽船株式會社

常務取締役

取締役

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

▲内外海運株式會社

社長

常務取締役

取締役

監査役

支配人

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

▲福川汽船株式會社

取締役社長

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

△神戸出張所長

▲南洋郵船株式會社

取締役社長

專務取締役

取締役

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

▲山地汽船株式會社

取締役社長

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

時崎八郎

原田六郎

松本良太郎

佐伯太吉

板谷宮吉

緒明

板谷圭造

鈴木一夫

山土地佐太郎

山下芳太郎

岸地吉太郎

屋代信雄

田村市郎

長谷川太郎

熊澤兵衛

小西一平

渡邊甚吉

岡崎久次郎

藤田歡治

高津太三郎

山本三郎

稻生二平

神山才治

風間禮助

小川鶴二

弘中嘉市

白田好三郎

藤石元次郎

長谷川太郎

熊澤兵衛

小西一平

渡邊甚吉

岡崎久次郎

藤田歡治

